

## 大学の世界展開力強化事業（平成25年度採択）中間評価結果表

大 学 名	上智大学
整理番号	5
事 業 名	多様性の調和を目指す学融合型の人間開発教育プログラム

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <span style="font-size: 2em; font-weight: bold;">A</span>	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p style="margin-top: 20px;">                     本事業は、ASEAN と日本の学生が共に学び合う協働教育のプラットフォームを提供し、アジアが共同体形成の柱とする「多様性の調和」とそれを支える人々の連結性に貢献する次世代を育成するために、多国間における問題発見型の教育を提示・実践することを目的としている。                 </p> <p style="margin-top: 20px;">                     これまで留学生の受入について欧米並びに英語圏の大学を主たる交流先としていた上智大学において、本事業を ASEAN 地域の大学との交流拡大を目指すものとして戦略的に位置付け、「環境」という全地球的な課題に焦点を当てた学融合的なプログラムを構築している点は高く評価できる。交流プログラムに関しては、必修科目に加え、環境に関わるフィールドワークを組み込むなど、魅力的な内容となっている。                 </p> <p style="margin-top: 20px;">                     派遣に際しては、語学要件や成績要件を厳格に定め、単位相互認定などに関する海外相手大学との協議を綿密に行うなど、質の保証について十分に留意されている。受入についても、来日直後にガイダンスを行い、個々の学生に合わせた履修計画を指導しており、評価できる。また、専従教員を配置し、受入・派遣双方の学生に対するケアを行うなど、学生のサポート体制が整備されている。更に、本事業に関する情報公開について、外部からも見えやすい形で積極的に行われており、外部委員による評価も予定どおり実施される見込みである。                 </p> <p style="margin-top: 20px;">                     一方で、中間評価までの交流学生数において、受入・派遣ともに数値目標を下回った点については、取組の強化により平成27年度には回復傾向が認められるものの、目標を下回った要因を改めて検討し、より有効な対策を早急に講じることが必要である。また、派遣学生の所属学部やや偏りが見られることから、ASEAN 地域をはじめとするアジアへの関心が全学的に高まるように努め、より多様性のある学生の確保が望まれる。                 </p> <p style="margin-top: 20px;">                     今後は、受入・派遣学生数ともに、目標の達成に向けて更なる取組の強化に努め、AIMS プログラムの枠組みを活用して ASEAN 地域の大学との交流を通じた人材育成に取り組み、事業目的を達成することが期待される。                 </p>	